

# 岡崎商工会議所 会員事業所

## デジタルツール活用 実態調査結果

### (概要版)

#### 調査概要

【目的】 コロナ禍や社会環境・消費者行動の変化、技術革新等に伴い、様々な分野でデジタル化が急速に進展しています。  
このような状況の中、会員事業所でのデジタルツール活用現状と課題をお伺いし、今後の本所事業活動に活かす為、アンケート調査を実施しました。

【期間】 令和3年12月3日～令和4年1月20日

【方法】 対象事業所にメール、FAX、グループウェア、口頭により依頼及び周知を行い、QRコード読取によるGoogleフォームを利用したアンケート方式にて実施。

【対象】 861事業所  
本所会員のうち、部会役員・幹事、青年部・女性部会員、就職情報室登録企業、岡崎地区外国人雇用管理推進協議会会員、記帳代行・指導対象者

【回答数】 274事業所

【回答率】 31.8%

#### ※参考

(回答事業所・業種別内訳)	製造業	: 21.7%
	建設業	: 16.3%
	小売業	: 12.0%
	卸売業	: 4.0%
	サービス業	: 46.0%

(回答事業所・従業員数規模別内訳)	0～5名	: 52.9%
	6～20名	: 16.7%
	21～50名	: 9.8%
	51～100名	: 8.7%
	101～300名	: 7.2%
	301名～	: 4.7%

●業種別・従業員数規模別の調査データ結果は、別途（資料版）に収録しています

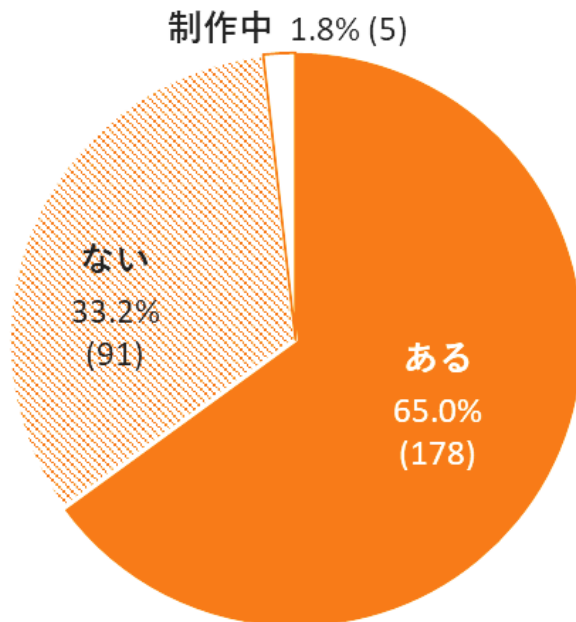
岡崎商工会議所

令和4年2月

## 1. 事業所WEBサイトはありますか？

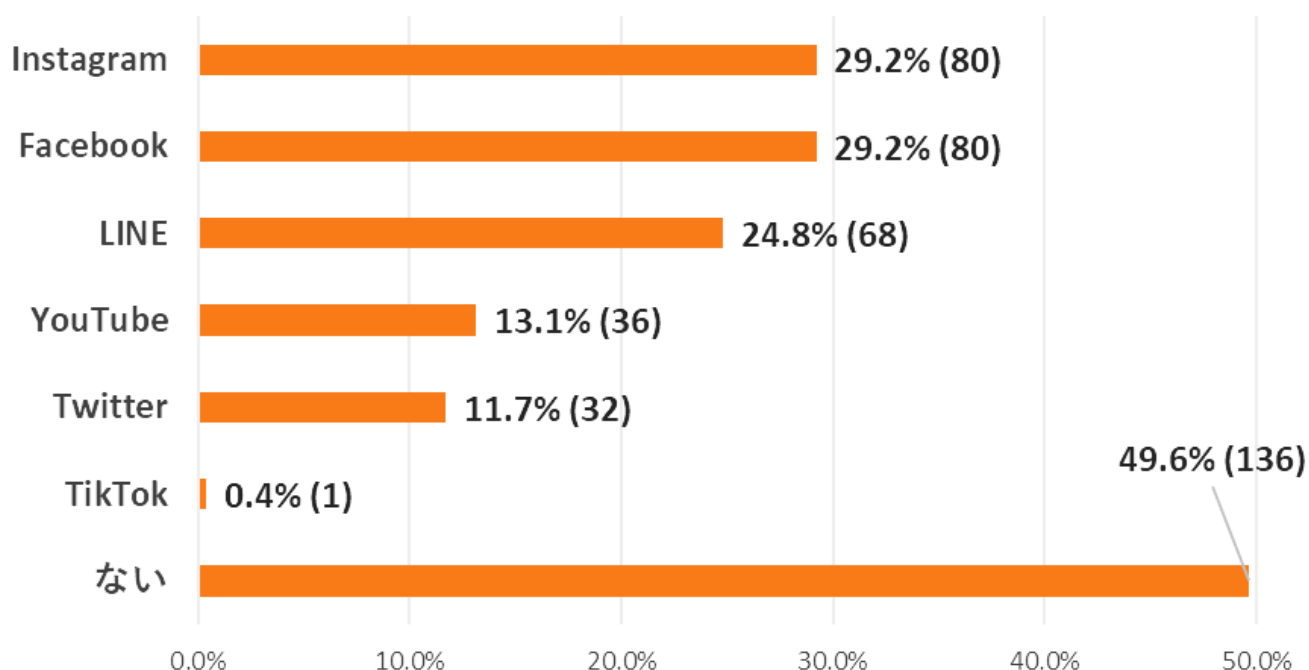
全体では、「あり」65.0%、「なし」33.2%、「制作中」1.8%。約3分の2の割合で事業所WEBサイトを有している。

なお、「規模別」では、従業員数が多い事業所が、WEBサイトを有している割合が多い。また、「業種別」では、「建設業」が、WEBサイトを有していない割合が多い。



## 2. SNSなど事業所の公式アカウントや活用はありますか。(複数回答)

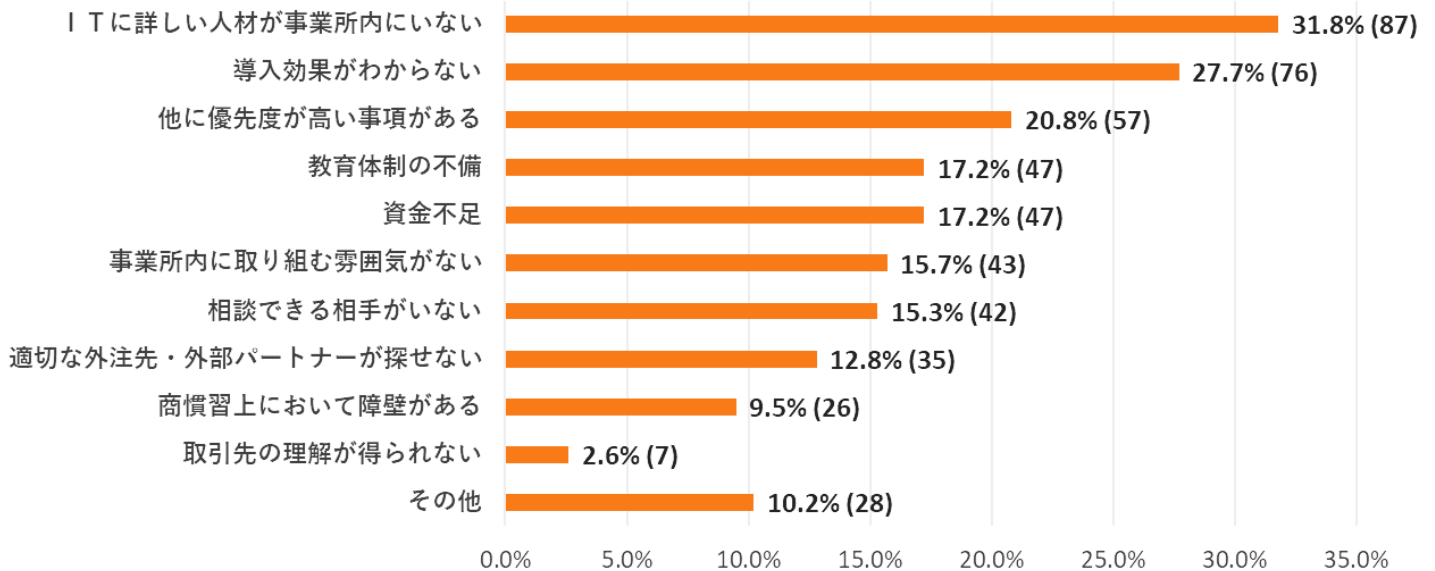
全体では、「ない」が49.6%と約半数を占める一方で、活用状況を見ると、「Instagram」と「Facebook」が29.2%で最も多く、次いで「LINE」24.8%、「Youtube」13.1%、「Twitter」11.7%などと続いた。



### 3. デジタルツールの導入やデータの活用に関して直面する課題は何ですか？（複数回答）

「IT に詳しい人材が事業所内にいない」が 31.8%で最も多く、次いで「導入効果がわからない」27.7%、「他に優先度が高い事項がある」20.8%、「教育体制の不備」17.2%、「資金不足」17.2%、「事業所内に取り組む雰囲気がない」15.7%、「相談できる相手がいない」15.3%、「適切な外注先・外部パートナーが探せない」12.8%、などと続いた。

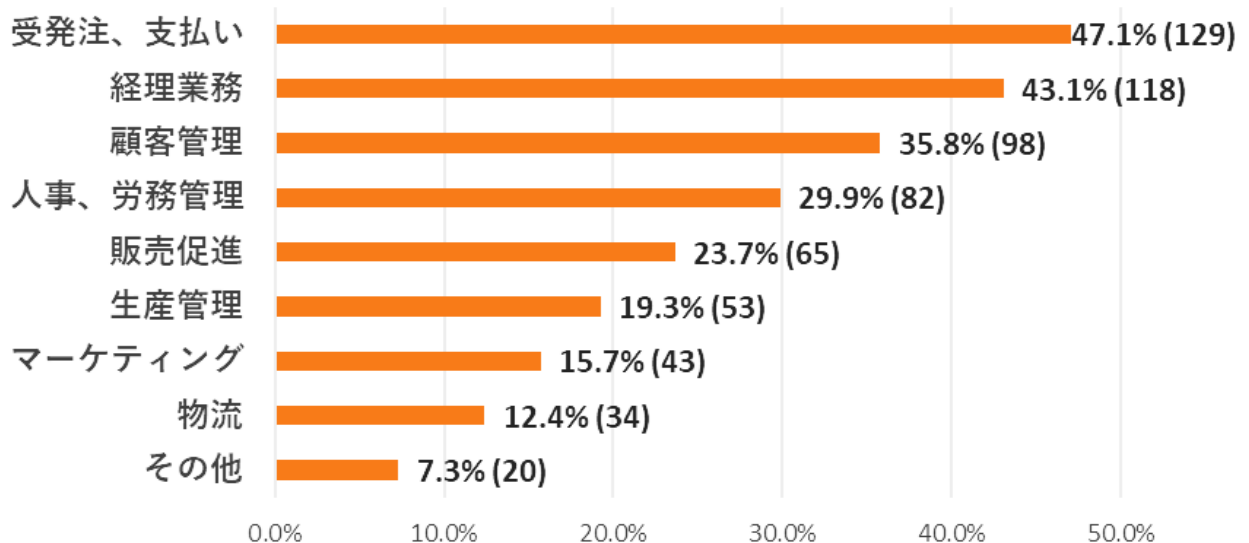
デジタルツールの導入やデータの活用においては、人材に関する課題が多く挙げられた。



### 4. 業務部門別においてデジタルツール・データ活用の段階はいかがですか？（複数回答）

現在「活用している」と回答した業務部門で最も多いのは、「受発注、支払」で 47.1%、次いで「経理」43.1%、「顧客管理」35.8%、「人事、労務管理」29.9%、「販売促進」23.7%、「生産管理」19.3%、「マーケティング」15.7%、「物流」12.4%、などと続いた。

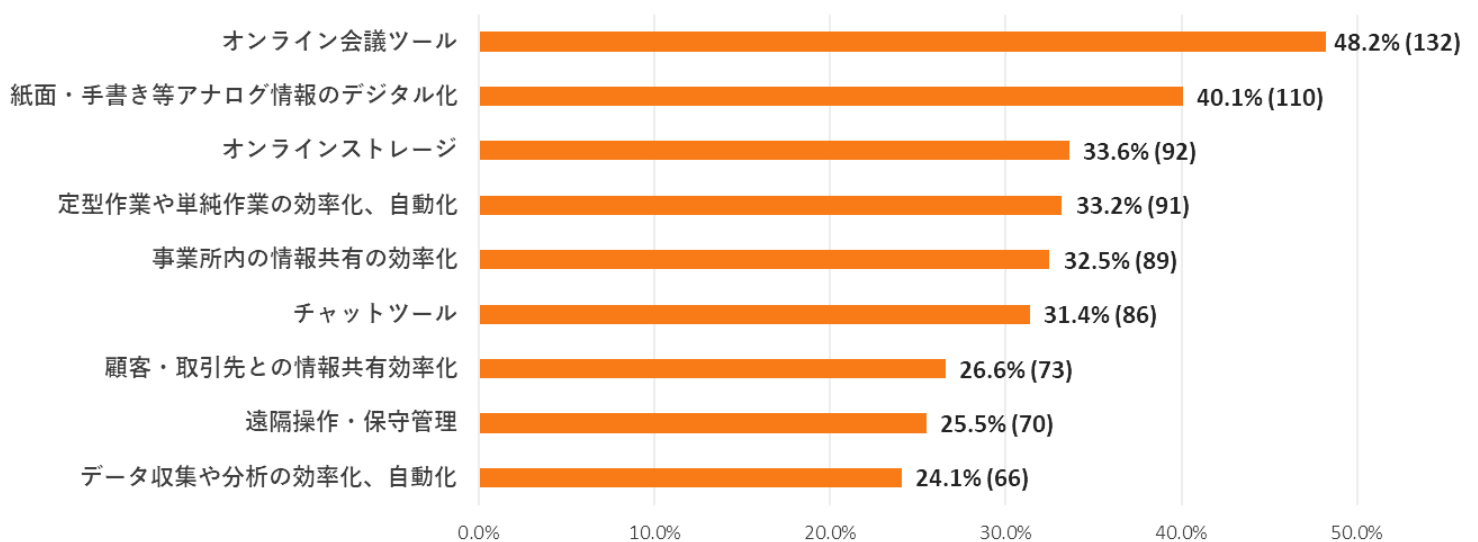
ルーティンワークが中心の部門において、活用の割合が多く挙げられた。



## 5. 業務内容においてデジタルツール・データ活用の状況はいかがですか？（複数回答）

現在活用している、と回答した業務内容で最も多いのは、「オンライン会議ツール（Zoom、Teams等）」で48.2%、次いで「紙面・手書きなどアナログで管理している情報のデジタル化」40.1%、「オンラインストレージ（インターネット上にデータを保管するサービス）」33.6%、「事務作業、定型作業や単純作業の効率化、自動化」33.2%、「事業所内の情報共有の効率化」32.5%、「チャットツール（Slack、chatwork、LINE WORKS、等）」31.4%、などと続いた。

コロナ禍において、コミュニケーションツールとしての活用が多く挙げられた。



## 6. 業務においてデジタルツール・データ活用の効果はいかがですか？（複数回答）

効果があった、と回答した内容で最も多いのは、「業務時間削減、業務効率化」で39.1%、次いで「コスト削減」29.6%、「事業所内コミュニケーションの円滑化」28.1%、「ミス防止」25.2%、「製品・サービスの性能向上」23.4%、「品質向上」19.3%、「製品・サービスのカスタマイズ」18.2%、「新規顧客開拓」17.2%、「提案営業の実施」15.7%、「既存顧客からの受注拡大」15.3%、などと続いた。

デジタルツールやデータ活用が生産性向上の効果を見いだしている。

